U.S. Indicators

発表日：2019 年 12 月 24 日（火）

米生産はスト終了で急増(19 年 11 月鉱工業生産)

～しかし、生産活動のモメンタムは一段の下振れ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治（TEL：03-5221-5001）

鉱工業生産

	鉱工業生産		製造業(NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業(SIC)	生産能力
18/10	＋0.2	(＋4.1)	▲0.1	＋0.1	＋2.6	▲0.6	▲0.1	▲1.9	＋79.3	＋76.8	＋0.2
18/11	＋0.5	(＋4.1)	＋0.2	＋0.8	＋2.7	▲1.1	＋0.2	＋0.6	＋79.6	＋76.9	＋0.2
18/12	＋0.0	(＋3.8)	＋0.6	＋2.2	▲6.8	▲0.1	＋0.8	＋4.0	＋79.5	＋77.3	＋0.2
19/01	▲0.4	(＋3.6)	▲0.6	▲0.4	＋0.8	＋1.5	▲0.8	▲7.2	＋79.0	＋76.7	＋0.2
19/02	▲0.5	(＋2.7)	▲0.5	▲1.3	＋0.6	＋0.8	▲0.4	＋1.6	＋78.5	＋76.3	＋0.2
19/03	＋0.1	(＋2.3)	▲0.1	▲0.2	＋1.7	＋0.8	▲0.2	▲1.3	＋78.4	＋76.2	＋0.2
19/04	▲0.6	(＋0.7)	▲0.9	＋2.6	▲3.3	▲1.2	▲0.8	▲1.7	＋77.8	＋75.4	＋0.2
19/05	＋0.2	(＋1.7)	＋0.1	▲0.3	＋1.9	▲0.4	＋0.1	＋2.4	＋77.8	＋75.4	＋0.2
19/06	＋0.0	(＋1.0)	＋0.6	＋0.4	▲4.2	＋1.2	＋0.6	＋2.8	＋77.7	＋75.7	＋0.2
19/07	▲0.2	(＋0.4)	▲0.4	▲2.1	＋4.4	＋0.8	▲0.5	＋0.9	＋77.4	＋75.3	＋0.2
19/08	＋0.8	(＋0.4)	＋0.7	＋2.4	▲0.6	＋1.9	＋0.6	▲1.2	＋77.9	＋75.7	＋0.2
19/09	▲0.4	(▲0.2)	▲0.7	▲0.3	＋1.4	▲0.0	▲0.7	▲5.7	＋77.4	＋75.1	＋0.2
19/10	▲0.9	(▲1.3)	▲0.7	▲0.8	▲2.4	＋0.1	▲0.8	▲6.0	＋76.6	＋74.5	＋0.2
19/11	＋1.1	(▲0.8)	＋1.1	▲0.2	＋2.9	＋1.7	＋1.1	＋12.4	＋77.3	＋75.2	＋0.2

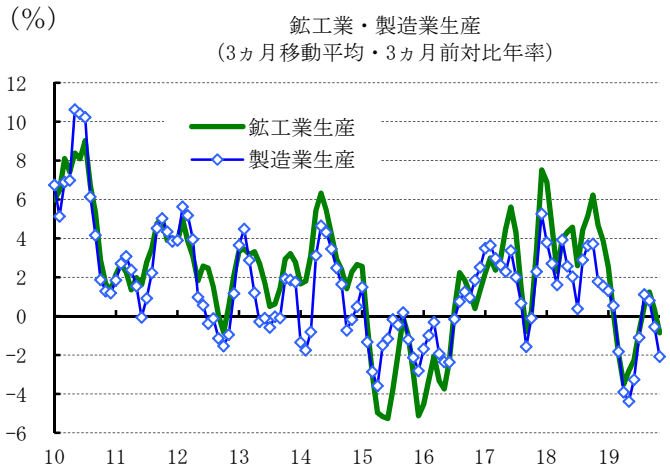
(注)ｶｯｺ内は前年比

19 年 11 月の鉱工業生産は、前月比＋1.1％（10 月同▲0.9％）と市場予想の同＋0.9％を上回ったが、６－10 月で 0.2％ｐ下方修正されており、実態は市場予想と変わらない。公益が前月比＋2.9％（10 月同▲2.4％）と増加に転じたほか、製造業がＧＭのスト終了により前月比＋1.1％（10 月同▲0.7％）と大幅に増加し（市場予想同＋0.8％、６－10 月で 0.2％ｐ下方修正）、鉱業が前月比▲0.2％（10 月同▲0.8％）と減少幅を縮小した。

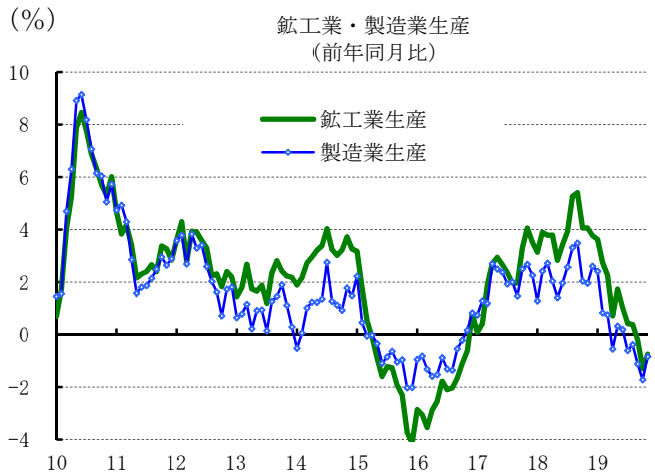
11 月の生産活動は、半導体などハイテク部門の堅調維持のほか、ＧＭのスト終了による自動車関連の急増によって大幅に上振れた。もっとも、３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率で鉱工業生産が▲0.1％（前月▲0.2％）、製造業生産が▲2.1％（前月▲0.5％）、前年比でも鉱工業生産が▲0.8％、製造業は▲0.8％とマイナスが続いた。

11 月の大幅な上振れは、ＧＭのスト終了による一時的な動きである。当面、ドルの高止まりや海外需要の減退、関税引き上げ、輸入規制による米輸出の停滞などによって、生産活動は縮小を続けると予想される。先行する企業景況調査は、生産活動のモメンタムの一段の悪化を示唆している。

製造業の業種別の動向では、一般機械が減少に転じたうえ、非鉄、家具・関連製品、アパレル、石油・石炭、化学、その他製造業が減少を続けた。また、木材製品、航空機・その他輸送設備、紙、印刷・同サポートが鈍化した。一方、一次金属、加工金属、コンピューター・電子機器、電気設備・部品、自動車・同部品、その他耐久財、繊維、プラスチック・ゴム製品が拡大に転じたほか、食品・飲料・タバコが加速した。



(出所) ＦＲＢ

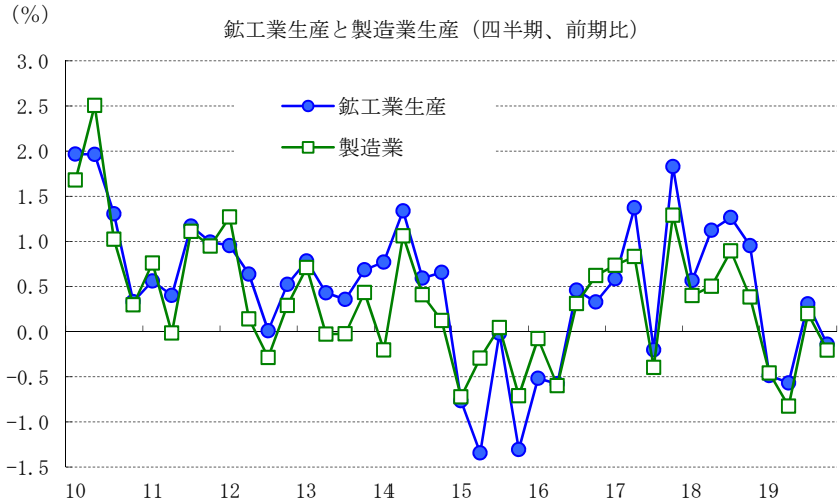


(出所) ＦＲＢ

四半期でみても、10、11 月平均の鉱工業生産は、前期比年率▲1.5%と７－９月の前期比年率＋1.2%から減少に転じた。内訳では、鉱業が前期比年率▲1.1%（７－９月期前期比年率▲1.7%）とマイナス幅を縮小した一方、製造業は前期比年率▲1.7%（７－９月期前期比年率＋0.8%）、公益事業が前期比年率▲0.8%（７－９月期前期比年率＋8.8%）とマイナスに転じた。

19 年の生産活動は、国内需要の拡大に支えられたものの、ドルの高止まりや貿易戦争によるコスト増加、先行き不透明感の高まり等の影響を受け、製造業生産が▲0.2%（18 年＋2.3%）と減少し、鉱工業生産が＋0.8%（同＋3.9%）に鈍化したと見込まれる。

20 年は、米国内需要が堅調さを維持するなか、在庫調整の進展、世界景気の持ち直し等を背景に、製造業生産が＋1.0%（19 年▲0.2%）と増加に転じるほか、鉱工業生産が＋1.6%（同＋0.8%）とプラス幅を拡大すると見込まれる。



(出所) ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。